

ジェニファー・リー

## ごあいさつ／致辞／Foreword

2015年の初個展に引き続き、こうして2度目のジェニファー・リー展を開催できますことを大変嬉しく思います。今展は2018年のロエベ財団のロエベクラフト大賞受賞後の初めての展覧会で、世界中から更なる注目を集めました。

私はジェニファーの純粋で子供のような人柄に魅了されてきました。ジェニファーを思うとき、まず目に浮かぶのはあの満面の無邪気な笑顔です。どんな方にでもフレンドリーに話しかける人柄もたくさんの方から愛される理由の一つだと思います。

今回は6週間日本に滞在し、彼女と一緒に過ごす貴重な時間を度々持つことができました。秋の様々な色に包まれる時期に、彼女が目にする風景と一緒に観られたことは、ジェニファー作品の知識を深める上でとても大切な時間となりました。訪れる様々な場所で見つける色、夕日に照らされる稲穂、川面を照らす光が反射して鉄橋に移す風景など、彼女の中で蓄積されていく風景が私の記憶にもとどめられたことに感謝しています。

日本での滞在中は陶芸の森で制作し、2014年から取り組んでいる轆轤形成の湯のみを作りました。彼女の信楽のスタジオスペースには苔、老爺柿、螻蛄など、彼女が集めた様々なものが作品の端々からのぞかせます。

彼女が目にする風景は彼女の中で蓄積し、時間を経て少しずつ消化されて行きます。作品のどこかにふとそんな風景を見つけた時、故郷に帰ったような暖かい心地がします。静かな空間にそっと佇んで人々の心を魅了する、ジェニファー作品の本質を感じていただけますと幸いです。

現代美術 艸居  
藤田篤実

继2015年首次个展能够再度举办詹妮弗·李展，我倍感喜悦。本次展览是艺术家荣获罗意威财团主办的罗意威手工艺大奖2018后的首次个展，更加吸引了全世界的目光。

一直以来我都为詹妮弗如孩子般纯粹的人格魅力所吸引。想到詹妮弗，眼前便浮现出她满面天真无邪的笑容。无论对方是谁，她都会友好地上前搭话，这样的性格也是詹妮弗受众人喜爱的理由之一吧。

本次詹妮弗在日本停留的六周里，我有幸与她共度了几段宝贵的时光。在秋日色彩绚烂的季节能与她共同目睹一样的风景，对于进一步理解詹妮弗的作品是十分重要的时间。所到之处发现的色彩，夕阳映照下的稻穗，河面的粼粼闪光反射到铁桥上的景色。在詹妮弗的记忆里积蓄起来的风景，也保存在了自己的记忆中，对此我真是心存感谢。

在日期间，詹妮弗于陶艺之森制作了茶杯，此茶杯采用了自2014年起本人开始研究的轆轤成形技艺。在她位于信乐的工作空间里有本人收集的苔藓、老鸦柿、螻蛄等等，这些物件都从她的作品细节之处可见一斑。

詹妮弗眼中捕捉到的风景在她的记忆里积存，随着时间推移渐渐消化。在其作品中不经意间发现那道风景时，仿若回到久别的故乡，一股暖意在心中油然而生。悄无声息地伫立在静谧的空间，令人全身心为其深深吸引。如果大家能够感受到詹妮弗作品的如此本质，确是一大幸事。

现代美术 草居  
藤田笃实

We are delighted to be holding our second solo show for Jennifer Lee, following the first solo show we held of her work in 2015. The current show has received even greater global attention because it is her first exhibition since winning the Loewe Foundation's Loewe Craft Prize.

I have become enchanted by Jennifer's pure and childlike personality. Whenever I think about Jennifer, the first thing that comes to mind is her beaming, innocent smile. I think her way of speaking to everyone in such a friendly manner is one of the reasons she is beloved by so many.

For this visit, Jennifer stayed in Japan for six weeks, so I had several opportunities to spend an invaluable time with her. Being able to be with her and see the scenery that she sees at a time of year wrapped in autumn's many colors became a significant chance for me to deepen my knowledge of Jennifer's work. From the many colors she discovers wherever she visits, to the rice ears illuminated by a sunset or the scene of an iron bridge reflected on a river's surface, I am grateful that the scenery that she accumulates inside herself are now also stored inside my memories.

During her stay in Japan, she created works at the Shigaraki Ceramic Cultural Park and used a lathe to create Japanese-style teacups, which has been a project of hers since 2014. The works inside her shigaraki studio space provide a glimpse of the many things she has collected, from moss to Chinese persimmons and praying mantises.

Jennifer accumulates inside herself the scenery that she sees and gradually digests it over time. When we unexpectedly discover this scenery in her works, we get a warm feeling like being back in our hometown. Feel the essence of Jennifer's works as they stand softly inside a quiet space, enchanting people's hearts.

Sokyo Gallery  
Atsumi Fujita

# ジェニファー・リー展に寄せて

## 出川哲朗

大阪市立東洋陶磁美術館 館長

ジェニファー・リーの作品には静謐な、そして、悠久の時を刻み込むかのような動きが感じられる。ジェニファー・リーの作り出す器はシンプルで、かつ独自の造形をしている。まるく小さな底面をもち、なめらかに立ちあがっている。口縁部よりやや下の部分でわずかにくぼみ、やや外側にひらいた口縁部は斜めにすっぱりと切り落とされている。どこか懐かしさを覚える造形であるが、これといった先行する造形はみあたらない。しいていえば食虫植物の「うつぼかずら」(勅葛 Nepenthes fafflesianaJack)を思い出させる造形である。

この造形は、轆轤で成形する形ではない。ジェニファー・リーが長年に渡って徐々に作り上げてきたものである。そして、この造形はジェニファー・リーを特徴付ける独創的な様式ともなっている。

中国陶磁では陝西省の仰韶文化期の姜寨遺跡出土の土器に似たような尖底壺を見つけることができるだろうが、作品の制作意図はまったく別であることに気が付くであろう。もともと仰韶文化の尖底壺は貯水用に制作されたと思われる、底部が尖っているのは底に泥や砂を沈殿させるためと言われている。そして、土中に底を突きさして、壺を安定させるのである。ジェニファー・リーの造形には全くその要素はなくて、底部を小さく丁寧に平らに磨いている。その曲面は極めてなだらかになっている。

彼女は轆轤を使わず、手びねり成形を行い、木や竹のへらでさらに薄つくりにしていく。どこか馴染み深い親しみのある造形にもみえるが、ジェニファー・リーが、まったくあらたに創造した形である。その造形は中国の宋時代の陶磁器のように、完全なる回転体で、完成した、静止したものと違い、さらに変容していくような動きが内在している。ジェニファー・リーの独特の造形は心地よい動きを孕んでいる。斜めに切り取られたような口縁部も動きの要素を持っている。

2018年5月には世界中から応募された約1900点の工芸作品のなかからジェニファー・リーの作品が「ロエベ・クラフト・プライズ2018」に選ばれた。2016年にロエベ財団によって設立されたこのクラフト賞で、第2回目にジェニファー・リーが受賞したことは、現代陶芸作品の在り方の、今後の方向性をも指し示すことほどのインパクトがあると思われる。

すでにジェニファー・リーは2009年に三宅一生デザイン文化財団の三宅一生氏が企画した「うつわ展—ルーシー・リー、ジェニファー・リー、エルンスト・ガンペール」で日本でもよく知られる作家になっていた。服飾デザイナーである三宅一生氏が、かつてルーシー・リーの作品にロンドンのギャラリーで偶然

にであい、コレクションを始めたのと同様に、ジェニファー・リーの作品にも共通するシンプルさと永遠性のある造形性を見出したのかもしれない。三宅一生氏は縄文土器よりも弥生土器のシンプルな造形に関心を向けていたこともある。しかしながら、ルーシー・リーや弥生土器と異なって、ジェニファー・リーの作品には、従来の壺や鉢にみられるような轆轤による人工的回転体の性格はなく、極めて自然な造形体となっている。

彼女はさらに2014年には信楽の「滋賀県立陶芸の森」のアーティスト・イン・レジデンスの招聘作家としてあらたな作陶に挑むこととなった。信楽では轆轤を使った小品も発表しているが、轆轤を使ったあとがはっきりとわかるような作品に仕上げている、これまで彼女の作品と同様に動きのある造形であるといえる。

ジェニファー・リーは釉薬を使わないため、作品には胎土の色がそのまま現れる。胎土に金属などの粉末を配合するのも彼女が始めた独自の技法となる。彼女がこれまで制作してきた胎土のサンプル・ピースは膨大な量があり、それらを参照しながら必要な胎土を調合していく。大まかに成形された器体に文様となる別の胎土を乗せていくのである。

無数の点となって発色するように金属を含んだ胎土を用いることもあれば、色のついた胎土を帯状にして細長い雲のように挿入していくこともある。それらが岩石や地層のような文様を現すこともある。

作品の表側と裏側が呼応するように注意深く、丁寧に親指で下から上、上から下にと色土をなじませる。そうすることによりももとの胎土と種類の異なる胎土との境界線はあいまいとなっている。

なめらかに色土を馴染ませたあと、表面は丹念に磨き上げられ、胎土に埋め込まれた様々な土が器形と相まって、無限に変化する雲のような表情を見せる。ジェニファー・リーは造形とともに、作品の表面の織り成す表情を特に重視している。光沢のある釉薬よりも、ずっと表情豊かな陶磁器を生み出したのである。これは長い陶磁史のなかでも、まったく新しい試みといえる。新石器時代の磨製土器と先尖壺を想起させるのではあるが、古代の陶磁器の模倣ではなく、明らかにオリジナリティのある現代性をもった作品である。

流れるような、ふくらみのある独自の造形と、多様なゆらぎを感じさせる表面の独特の表情によって、ジェニファー・リーが現そうとしている、動きの永続性と存在の永遠性を孕んだ魅力的な作品となっている。

# 詹妮弗·李展 寄语

## 出川哲朗

大阪市立东洋陶瓷美术馆  
馆长

詹妮弗·李的作品散发着静谧的气息，和仿若雕刻悠久时光般的动感。其创作的器皿简洁且造型独特。在小巧的圆形底面支撑下，器皿流畅优雅地矗立着。口部边缘微微向外侧展开，稍靠下方位置略显凹陷，罐口如被一刀砍过，呈斜面，斜口干净利落。这一形态有些令人感到似曾相识，却又从真正未见过如此超前的造型。那顶多让人联想到食虫植物猪笼草。

这种造型并非辘轳拉胚，而是詹妮弗·李历经多年慢慢手捏成形。这一独创样式已成为詹妮弗·李作品的标志。

在中国陶瓷里，我们会发现陕西仰韶文化姜寨遗迹出土的尖底壶与其颇为相似，但一定会发现詹妮弗·李的创作意图与其迥然相异。仰韶文化的尖底壶原本是用来储水的，据说底部之所以尖突是为沉淀泥土和沙子。另外，只有扎在土里，罐子才能平稳放置。而詹妮弗·李的作品造型完全没有这类实用要素，底部被细致打磨得小巧而平滑，曲面也非常流畅顺滑。她不使用辘轳车，手作成形后再用刮刀去薄。

器皿造型虽然看上去有种似曾相识的亲切感，但那些都是詹妮弗·李全新创造的形态。与中国宋代陶瓷相似，其造型是一个完美的旋转体，但同时又异于那些既已完成、静止的容器，包藏一种会持续变化的动感。詹妮弗·李作品的独特造型蕴含一种舒适的动态韵律。如被切切割出来的倾斜口部边缘，也增添了这一动感要素。

2018年6月，从全世界范围征集的约1900件手工艺作品中，詹妮弗·李的作品被选为“罗意威手工艺大奖2018”。罗意威财团2016年设立该奖项，詹妮弗·李于第三届评选中夺脱颖而出，其冲击性预示了当代陶艺在未来的创作发展方向。

早在2009年，詹妮弗·李借由参展三宅一生财团三宅一生策划的《器U-Tsu-Wa—露西·理惠、詹妮弗·李、恩斯特·甘培尔》展而成为在日本广为人知的艺术家。时装设计师三宅一生曾经在伦敦的一家画廊偶遇露西·理惠的作品，并以此为契机开始收藏。或许他也在詹妮弗·李的作品中发现了与露西·理惠作品共通的简洁与永恒性造型。三宅一生本人相较绳文土器，对弥生时代土器的简易造型更感兴趣。然而，与露西·理惠、弥生土器迥然不同的是，詹妮弗·

李作品中的罐和钵并未利用通常的辘轳拉胚，不具有任何人工旋转体的特征，而是高度自然的造型体态。

2014年，詹妮弗·李作为信乐“陶艺之森”的驻在艺术家开始陶艺创作的新挑战。在信乐，她也发表了使用辘轳车的小作品，作品刻意留下明显的运用辘轳车的痕迹，可以说这些作品是一如既往富于动感的造型。

詹妮弗·李并不讲求釉的使用，而是潜心研究在胚土中混合各种金属。至今为止她制作了大量胚土样本，再以其为依据调合需要的胚土。为制作出与样本相同的容器表面，在大致成形的器皿上揉合其他胚土，形成花纹。

有些作品使用的胚土含有金属，仿佛无数点连成一片，形成色彩；也有作品是将带有颜色的胚土处理为带状，再将其揉合成如细长云朵般的形态。其中也有呈现出类似岩石、地层纹路的作品。

制作过程中，艺术家十分注意保持容器内外侧相得益彰，小心翼翼地将另一种胚土揉进、或说镶嵌其中，其手捏工艺制作出的容器表面浑然天成，原本的胚土与异种胚土间的界限模糊暧昧。

和谐融合不同胚土后，就烧成的容器表面进行细致打磨，胚土中混合的各式各样的土质与容器形态相辅相成，展现出如千变万化的浮云般丰富的表情。除造型外，詹妮弗·李对容器表面交织的表情也尤其重视。比起运用有光泽的釉子，她创作出的陶瓷器总是表情丰富的。这在历史绵长的陶瓷史上也算是全新的尝试。其作品虽然会让人联想到新石器时代的磨制土器和尖底壶，但她绝未曾模仿古代陶瓷，显而易见，那些都是充满现代感的原创作品。

如行云流水般、充满张力的独特造型；富于变幻起伏的表面展现出独特的表情。詹妮弗·李试图表现动态的持久性与存在的永恒，她的作品也因此而充满魅力。

# On the Exhibition of Jennifer Lee

## Tetsuro Degawa

Director  
The Museum of Oriental Ceramics, Osaka

The work of Jennifer Lee contains a sophisticated motion that carves the abyss of time. Her vessels have a simple yet unique form of their own. They have a small base from which the body smoothly curves. The body narrows just below the rim, the lip of which extends outwards and is sliced sharply at an angle. While this shape has a somewhat familiar impression, no particular preceding example can be found. The shape of the pitcher plant (*Nepenthes rafflesiana* Jack) could be considered similar.

Jennifer Lee's forms cannot be made using the wheel. Instead they are gradually developed by hand over time and have become a unique style that characterizes the artist's work.

In the field of Chinese ceramics, similar conical jars can be found in the clay vessels, excavated from Jiangzhai in Shaanxi, a remnant from the Yangshao culture period. The intention behind the shape however, is obviously very different here. The conical vessel in Yangshao culture was made to store water. The cone-shaped base was to allow sand and mud to settle in the bottom and enabled the pot to be placed into the ground. Such a functional element does not exist in Jennifer Lee's work. Her vessels have a small flat, not totally conical base, and their curved surfaces are gentle and smooth.

Jennifer Lee creates her work without using the wheel and she uses wood and bamboo hand tools to thin the vessel body. This somewhat familiar form is a pure creation by the artist. Unlike porcelain from the Song dynasty in China, which has a balanced static shape because of the perfect turning of the wheel, Jennifer Lee's unique form contains a natural motion that continues to transform itself. The angled rim also adds an additional motion to the work.

In May 2018, Jennifer Lee's work was awarded the Loewe Craft Prize 2018, having been selected from approximately 1,900 craft works entered. This prize was founded by the Loewe Foundation in 2016, and her winning the prize in its second year has created great impact for the future direction of contemporary ceramics.

Jennifer Lee is already known in Japan through the exhibition *U-TSU-WA: Lucie Rie, Jennifer Lee, Ernst Gamperl*, organized by Issey Miyake (the Miyake Issey Foundation) in 2009. A clothing designer, Issey Miyake accidentally met Lucie Rie at a gallery in London and started collecting her work. Miyake may have found a similarity between Rie's and Jennifer Lee's works in forms which contain simplicity and eternity. Issey Miyake

was more interested in the simplicity of the Yayoi than the Jomon vessel. Although they are more refined forms, Jennifer Lee's work has the hand built simplicity of the Yayoi vessel which cannot be achieved on the wheel.

Recently she has further initiated a new direction in her ceramics making methods. In 2014 she was invited to the Shigaraki Ceramic Cultural Park as a resident artist. In Shigaraki she created small pieces using the wheel, however, she left an obvious trait of the wheel in these thrown works which achieve a shape and motion similar to her previous hand built works.

Instead of experimenting with glaze, Jennifer Lee experiments with clay. She mixes metal oxides within the clay, the practice of which is very unique to her. She has tested an enormous number of clay mixes, firing a sample of each batch. These samples are referred to before making a particular vessel.

Sometimes clay with metal oxides is used to create random colorful specks, while the coloured clay band is applied like a slender cloud. In some cases, the pattern appears like a sedimentary rock or a geographical stratum.

Different coloured clays are meticulously used to hand build the work, almost like an inlay, yet colour runs through the piece so the form and colour are totally united. The inside and outside of the vessel correspond to each other. The boundary between the body clay and the colour which appears on the surface merges and becomes ambiguous.

Before firing the surfaces of the vessel are carefully burnished. The various types of clay and the form of the vessel create an expression of an ever-changing cloud on the surface. Jennifer Lee focuses on both the form and the integrated surface. Her experimentation has created an extremely rich expression in ceramics without using glaze. Such a challenge is truly new in the long history of ceramics. While the shapes recall the polished clay and conical vessels from the Neolithic Age, her work is not an imitation of ancient ceramics but a contemporary work with a clear sense of originality.

With a fluid round shape and a unique expression on the ever-changing surface, Jennifer Lee's fascinating work contains perpetual motion and eternal existence.

1

帯模様のオリーブ色、泥炭、砂、光輪、閃光

*Banded olive, peat, sand, haloes, flashing*

2017









淡色、二筋の光輪がかかったオリーブ色の花崗岩質の跡

*Pale, two haloed olive granite traces*

2018











青、濃い光輪の苔色の縁

*Blue, dark halo moss rim*

2018



斑点のある青、オリーブ色の跡、オリーブ色の素地

*Speckled blue, olive trace, olive base*

2018





12

信楽 6-18

*Shigaraki 6-18*

2018

13

信楽 3-18

*Shigaraki 3-18*

2018

14

信楽 35-14

*Shigaraki 35-14*

2018

15

信楽 19-15

*Shigaraki 19-15*

2018





16

信楽 33-14

*Shigaraki 33-14*

2018

17

信楽 34-14

*Shigaraki 34-14*

2018

18

信楽 2-18

*Shigaraki 2-18*

2018

19

信楽 6-14

*Shigaraki 6-14*

2018

20

信楽 31-14

*Shigaraki 31-14*

2018

21

信楽 1-18

*Shigaraki 1-18*

2018



22

信楽 37-14

*Shigaraki 37-14*

2018

23

信楽 5-15

*Shigaraki 5-15*

2018

24

信楽 5-18

*Shigaraki 5-18*

2018

25

信楽 32-14

*Shigaraki 32-14*

2018

26

信楽 36-14

*Shigaraki 36-14*

2018

27

信楽 20-15

*Shigaraki 20-15*

2018



17

信楽 34-14

*Shigaraki 34-14*

2018



19

信楽 6-14

*Shigaraki 6-14*

2018











*Handwritten signature and date: J. L. 2018*











## ジェニファー・リー

1956	スコットランド生まれ
1975-1979	エジンバラ・カレッジ・オブ・アート卒業
1979-1980	奨学金を受けアメリカに滞在
1980-1983	ロイヤル・カレッジ・オブ・アート 修士課程修了

### 【個展(2000～)】

2018	現代美術 艸居(京都)
2017	LVS ギャラリー(ソウル/韓国)
2016	アースキン、ホール&コー(ロンドン/イギリス)
2015	現代美術 艸居(京都)
2015	滋賀県立陶芸の森 創作研修館(滋賀)
2013	アースキン、ホール&コー(ロンドン/イギリス)
2012	فرانク・ロイド・ギャラリー(サンタモニカ/カリフォルニア/アメリカ)
2010	リヴァプール・ストリート・ギャラリー(シドニー/オーストラリア)
2009	フランク・ロイド・ギャラリー(サンタモニカ/カリフォルニア/アメリカ)
2008	ギャラリー・ベッソン(ロンドン/イギリス)
2006	リヴァプール・ストリート・ギャラリー(シドニー/オーストラリア)
2005	フランク・ロイド・ギャラリー(サンタモニカ/カリフォルニア/アメリカ)
2003	ギャラリー・ベッソン(ロンドン/イギリス)
2002	フランク・ロイド・ギャラリー(サンタモニカ/カリフォルニア/アメリカ)
2000	ギャラリー・ベッソン(ロンドン/イギリス)

### 【グループ展(2000～)】

2018-2019	「手のひらの取まるもの(Handheld)」アルドリッチ現代美術館(リッジフィールド/コネチカット/アメリカ)
2018	「うつわドラマチック展」岩手県立美術館(岩手) 「美しいものの成長:ブリティッシュ・スタジオ・セラミックス」フィッツウィリアム美術館(ケンブリッジ/イギリス) 「イギリススタジオ陶芸の巨匠たち」コレクト、サーチ・ギャラリー(ロンドン/イギリス) 「ロエベ・クラフト・プライズ2018」デザイン・ミュージアム(ロンドン/イギリス)最優秀賞受賞 「時を超えた秘密- 彼ら自身の言葉における陶芸アーティストたち」スウィンドン美術館(スウィンドン/イギリス)
2017	「エールリヒ・コレクション、アメリカとイギリスの陶芸」サン・アンジェロ美術館(サン・アンジェロ/テキサス/アメリカ) 「美しいものの成長:イギリススタジオ陶芸」イェール・センター・フォー・ブリティッシュ・アート(ニューヘイブン/コネチカット/アメリカ) 「うつわドラマチック展」滋賀県立陶芸の森陶芸館(滋賀) 「デザイン・パーゼル」現代美術 艸居(パーゼル/スイス) 「12人のアーティスト」アースキン、ホール&コー(ロンドン/イギリス)
2015	「表現するうつわーイギリス現代陶芸の精神」益子陶芸美術館(栃木) 「数々の不注意(Many a Slip)」マーズデン・ウー・ギャラリー(ロンドン/イギリス)
2014	「日本のデザインミュージアム実現にむけて展」21_21 Design Sight(東京) 「現代イギリスの陶芸〜バーナード・リーチから若手作家まで」滋賀県立陶芸の森陶芸館(信楽) 「小さいことは美しい」フランク・ロイド・ギャラリー(サンタモニカ/カリフォルニア/アメリカ) 「あるコレクターの展覧会(The Collector's Exhibition)」リヴァプール・ストリート・ギャラリー(シドニー/オーストラリア)
2013	第二回ささま国際陶芸祭(静岡) 「国際陶芸フェスティバル」フェルケール博物館(静岡) 「世界からII」ギャルリ・フー(愛知) 「クラシック & コンテンポラリー」アースキン、ホール&コー(ロンドン/イギリス) 「炎の中で形作られる友情:アメリカにおけるイギリスの陶芸」アメリカ陶芸美術館(ポモナ/カリフォルニア/アメリカ)
2012	「第二回FIHOC フランク国際陶芸館」フランク・ロイド・ギャラリー(サンタモニカ/カリフォルニア/アメリカ) 「ギャラリー・ベッソン 生涯の情熱回顧展」オフィチーネ・サッフィ(ミラノ/イタリア) 「モノの本質:ジェニファー・リー、ハンス・ストファー、ローラ・エレン・ペーコン」ニュー・アート・センター(ウィルトシャー/イギリス) 「店主の名品展:店主交代記念 海外作家編」酉福ギャラリー(東京)
2011	「イギリススタジオ陶芸」ダネーゼ(ニューヨーク/アメリカ) 「イギリスの現代陶芸」ミント・クラフト&デザイン美術館(シャーロット/ノースカロライナ/アメリカ)
2010	「あるコレクターの展覧会(The Collector's Exhibition)」リヴァプール・ストリート・ギャラリー(シドニー/オーストラリア) 「グループ展」酉福ギャラリー(東京)
2009	「U-Tsu-Wa:ルーシー・リー、ジェニファー・リー、エルンスト・ガンペール」21_21 Design Sight(東京) 「現代スタジオ陶芸:ダウアーコレクション」カリフォルニア州立大学(サクラメント/カリフォルニア/アメリカ)

	「セルマークコレクション」ロスカ美術館(ヨーテボリ/スウェーデン)
2008	「イギリススタジオ陶芸-20世紀の変遷」バッキンガムシャー州博物館(アイルズベリー/イギリス) 「20年-20のうつわ」ギャラリー・ベッソン(ロンドン/イギリス)
2006	「コレクト」ヴィクトリア&アルバート美術館(ロンドン/イギリス) 「ピュアクレイ」陶磁器博物館(テジェレン/オランダ) 「国際戦後陶芸」ボナムズ(ロンドン/イギリス)
2005	「クラフト・カウンシル30周年記念展」ヴィクトリア&アルバート美術館(ロンドン/イギリス) 「ヨーロッパ現代陶芸ビエンナーレ」道具と職人博物館(トロワ/フランス) 「近代のうつわ:ルーシー・リー、ハンス・クーパー、その同時代作家たち」ダルウィッチ・ピクチャー・ギャラリー(ロンドン/イギリス) 「ダックワース オマージュ-有機的抽象主義」ガース・クラーク・ギャラリー(ニューヨーク/アメリカ) 「一作品一作家 国際展」ギャラリー・マリアヌ・ヘラー(ハイデルベルグ/ドイツ)
2004	「ヨーロッパの陶芸」ウスターバルト陶芸美術館(ウスターバルト/ドイツ)
2003	「土の造形:近代イギリスの手びねり」ギャラリー・ベッソン(ロンドン/イギリス) 「選りすぐりの陶芸」ジェームス・グラハム&サン(ニューヨーク/アメリカ) 「世界陶芸ビエンナーレ2003」利川世界陶磁センター(利川/韓国) 「イギリスの陶芸:5人の作家」フランク・ロイド・ギャラリー(サンタモニカ/カリフォルニア/アメリカ) 「イギリスの陶芸」バッキンガムシャー州博物館(アイルズベリー/イギリス) ホーヴ美術館&アートギャラリー(ホーヴ/イギリス)
2002	「10カ国のうつわ」バイエルン・クラフト・カウンシル(ミュンヘン/ドイツ) 「陶芸のモダニズム:ハンス・クーパー、ルーシー・リーと彼らの遺したもの」ガーディナー陶磁器博物館(トロント/カナダ)
2001	「土の詩:国際的観点から」フィラデルフィア美術連合(フィラデルフィア/ペンシルベニア/アメリカ) 「第一回世界陶芸ビエンナーレ2001」利川世界陶磁センター(利川/韓国) 「近代のうつわ」東アングリア大学サンスプリービジュアルアートセンター(ノリッチ/イギリス) 「ベンゲト・ジュリンの陶芸」グスタフスベリ陶磁器博物館(グスタフスベリ/スウェーデン)
2000	「イギリスの陶芸」デンマーク陶芸美術館(グリマーウス/デンマーク) 「色と火:スタジオ陶芸における決定的時期 1950-2000」ロサンゼルス州立美術館(ロサンゼルス/アメリカ)

### 【バブリックコレクション】

#### 【イギリス】

アバディーン美術館(アバディーン)/アシュモレアン博物館(オックスフォード)/大英博物館(ロンドン)/バッキンガムシャー州博物館(アイルズベリー)/現代美術協会(ロンドン)/クラフト・カウンシル・コレクション(ロンドン)/フィッツウィリアム美術館(ケンブリッジ)/グラスゴー美術館(グラスゴー)/ホーヴ美術館(ホーヴ)/リーズ市アートギャラリー(リーズ)/ミドルズブラ・モダン・アート協会ギャラリー(ミドルズブラ)/ピーターズ財団(ロンドン)/王立博物館(エジンバラ)/東アングリア大学 サンスプリー・ビジュアル・アーツ・センター(ノリッチ)/スコティッシュ・コレクション、スコットランド・ダウンヒル協会(エジンバラ)/テムズダウン・コレクション、スウィンドン美術館(スウィンドン)/受託者貯蓄銀行(ロンドン)/ヴィクトリア&アルバート美術館(ロンドン)

#### 【ドイツ】

ヨーロッパ美術工芸貿易事務局(シュツットガルト)/コーブルク城塞アートコレクション(レーデントール)/美術工芸博物館(ハンブルク)/ピーター・ジームセン陶芸財団

#### 【スウェーデン】

セルマーク(ヨーテボリ)/スウェーデン国立美術館(ストックホルム)/ロシカ美術館(ヨーテボリ)

#### 【スイス】

アリアナ美術館(ジュネーヴ)/ベルリーヴ美術館(チューリッヒ)

#### 【ニュージーランド】

ホークス・ベイ美術館(ネーピア)

#### 【アメリカ】

カーネギー美術館(ピッツバーグ/ペンシルベニア)/クロッカー美術館(サクラメント/カリフォルニア)/ロングビーチ美術館(ロングビーチ/カリフォルニア)/ロングハウス・リザーブ・コレクション/ロサンゼルス州立美術館(ロサンゼルス/カリフォルニア)/ミネアポリス美術館(ミネアポリス/ミネソタ)/フィラデルフィア美術館(フィラデルフィア/ペンシルベニア)/スクリップスカレッジ(クレアモント/カリフォルニア)/メトロポリタン美術館(ニューヨーク)

#### 【カナダ】

ガーディナー陶芸博物館(トロント)

#### 【韓国】

アモーレバシフィック美術館(ソウル)

#### 【日本】

栃木県立美術館(栃木)/益子陶芸美術館(栃木)/滋賀県立陶芸の森陶芸館(滋賀)/兵庫陶芸美術館(兵庫)

## 詹妮弗·李 (Jennifer Lee)

1956	生于苏格兰
1975-1979	爱丁堡艺术学院
1979-1980	获游学奖学金赴美
1980-1983	伦敦皇家艺术学院 (RCA) 文学硕士 (MA)

### 个展 (2000-)

2018	现代美术 草居 (日本/京都)
2017	LVS Gallery (韩国/首尔)
2016	Erskine, Hall & Coe (英国/伦敦)
2015	现代美术 草居 (日本/京都)
2015	滋贺县立陶艺之森 (日本/信乐)
2013	Erskine, Hall & Coe (英国/伦敦)
2012	Frank Lloyd Gallery (美国/加州/圣莫尼卡)
2010	Liverpool Street Gallery (澳大利亚/悉尼)
2009	Frank Lloyd Gallery (美国/加州/圣莫尼卡)
2008	Galerie Besson (英国/伦敦)
2006	Liverpool Street Gallery (澳大利亚/悉尼)
2005	Frank Lloyd Gallery (美国/加州/圣莫尼卡)
2003	Galerie Besson (英国/伦敦)
2002	Frank Lloyd Gallery (美国/加州/圣莫尼卡)
2000	Galerie Besson (英国/伦敦)

### 群展 (2000-)

2018 - 2019	“Handheld”展, 奥德里奇当代艺术博物馆 (美国/康州/里奇菲尔德)
2018	“戏剧化的器皿展”, 岩手县立美术馆 (日本/盛冈)
	“成长的美丽事物：英国艺术陶瓷”展, 非兹威廉博物馆 (英国/剑桥)
	“英国艺术陶瓷大师展”, 收藏, 萨奇画廊 (英国/伦敦)
	罗意威手工艺大奖2018, 设计博物馆 (获奖者) (英国/伦敦)
	“永恒的秘密—陶瓷艺术家的语言”展, 斯温顿博物馆与美术馆 (英国/斯温顿)
2017	“埃利利希收藏中的英美陶瓷”展, 圣安吉洛美术馆 (美国/得克萨斯/圣安吉洛)
	“成长的美丽事物：英国艺术陶瓷”展, 耶鲁大学英国艺术中心 (美国/康州/纽黑文)
	“戏剧化的器皿展”, 滋贺县立陶艺之森 (日本/信乐)
	“设计巴塞尔”, 现代美术草居 (瑞士/巴塞尔)
	“十二艺术家展”, Erskine, Hall & Coe (英国/伦敦)
2015	“表现的器皿：英国现代陶艺的精神”展, 益子陶艺美术馆 (日本/益子)
	“Many a Slip”展, Marsden Woo Gallery (英国/伦敦)
2014	“朝向建立一座日本设计博物馆的目标”展, 21_21 Design Sight (日本/东京)
	“现代英国陶艺展~从伯纳德·利奇到新世代”展, 滋贺县立陶艺之森 (日本/信乐)
	“小即美”展, Frank Lloyd Gallery (美国/加州/圣莫尼卡)
	藏家展, Liverpool Street Gallery (澳大利亚/悉尼)
2013	第二届笹间国际陶艺艺术节 (日本/笹间)
	“国际陶瓷展”, Verkehr Museum (日本/静冈)
	“来自世界II”展, GALERIE hu (日本/名古屋)
	“经典与当代”展, Erskine, Hall & Coe (英国/伦敦)
	“火焰铸就友情：英国陶瓷在美国”展, 美国陶瓷艺术博物馆 (美国/加州/波莫纳)
2012	“第二届FIHOC：法兰克国际陶艺馆”, Frank Lloyd Gallery (美国/加州/圣莫尼卡)
	“Galerie Besson：毕生热情回顾展”, Officine Saffi Ceramic Arts (意大利/米兰)
	“事物的本相：詹妮弗·李、汉斯·斯道夫与劳拉·埃伦·培根”展, New Art Centre (英国/威尔特郡)
	“店主名品展—店主交替纪念 海外艺术家篇”, 酉福画廊 (日本/东京)
2011	“当代陶艺展”, Danese画廊 (美国/纽约)
	“当代英国艺术陶瓷展”, 美国造币厂工艺设计博物馆 (美国/北卡罗来纳/夏洛特)
2010	“蓝色碎片—藏家展”, Liverpool Street Gallery (澳大利亚/悉尼)
	群展, 酉福画廊 (日本/东京)
2009	“器U-Tsu-Wa—露西·理惠、詹妮弗·李、恩斯特·甘培尔”展, 21_21 Design Sight (日本/东京)
	“当代艺术陶瓷：道斯收藏”展, 加州州立大学 (美国/加州/萨克拉门托)
	“塞尔马艺术收藏展”, 勒斯卡博物馆 (瑞典/哥德堡)

2008	“英国艺术陶瓷—20世纪的转形”展, 白金汉郡博物馆 (英国/艾尔斯伯里)
	“二十年二十器展”, Galerie Besson (英国/伦敦)
2006	馆藏展, 维多利亚和阿尔伯特博物馆 (英国/伦敦)
	“纯·土”展, 陶瓷博物馆 (荷兰/泰赫伦)
	“战后国际陶瓷艺术展”, 邦瀚斯 (英国/伦敦)
2005	“V&A手工艺协会30周年纪念”展, 维多利亚和阿尔伯特博物馆 (英国/伦敦)
	欧洲当代陶瓷艺术双年展, 工具和手工艺品博物馆 (法国/特鲁瓦)
	“现代陶艺：露西·理惠、汉斯·考伯和他们的同时代艺术家”展, 多维茨画廊 (英国/伦敦)
	“致敬达克沃斯—有机的抽象”展, 加思克拉克画廊 (美国/纽约)
	“一件作品一位艺术家”国际展, Galerie Marianne Heller (德国/海德堡)
2004	“欧洲陶瓷展”, 韦斯特瓦尔德美术馆 (德国/韦斯特瓦尔德)
2003	“建筑泥土：现代英国手塑展”, Galerie Besson (英国/伦敦)
	“英国陶瓷精选展”, James Graham & Sons (美国/纽约)
	陶瓷双年展2003, 利川世界陶瓷中心 (韩国/利川)
	“英国陶瓷：五人展”, Frank Lloyd Gallery (美国/加州/圣莫尼卡)
	“英国手作陶瓷展”, 白金汉郡博物馆 (英国/艾尔斯伯里)
	霍夫博物馆及艺术画廊 (英国/霍夫)
2002	“十国器皿展”, 巴伐利亚手工艺协会 (德国/慕尼黑)
	“陶瓷现代主义：汉斯·考伯、露西·理惠和他们的传奇”展, 加德纳陶瓷博物馆 (加拿大/多伦多)
2001	“泥土的诗歌：一个国际视野”展, 费城艺术联盟 (美国/宾夕法尼亚/费城)
	第一届世界陶瓷双年展2001, 利川世界陶瓷中心 (韩国/仁川)
	“现代器皿展”, 桑斯伯里视觉艺术中心 (英国/诺里奇)
	“本特·朱林陶艺展”, 古斯塔夫斯博格陶瓷博物馆 (瑞典/古斯塔夫斯博格)
2000	“英国陶瓷2000.dk”展, 格里默斯陶瓷博物馆 (丹麦/格里默斯)
	“色彩与火焰—定义艺术陶瓷的瞬间”展, 洛杉矶艺术博物馆 (美国/加州/洛杉矶)

### 公共收藏

[英国]
阿伯丁艺术画廊及博物馆 (阿伯丁) / 阿什莫林博物馆 (牛津) / 大英博物馆 (伦敦) / 白金汉郡博物馆 (艾尔斯伯里) / 当代艺术协会 (伦敦) / 手工艺协会收藏 (伦敦) / 非兹威廉博物馆 (剑桥) / 格拉斯哥博物馆及艺术画廊 (格拉斯哥) / 霍夫博物馆及艺术画廊 (霍夫) / 利兹美术馆 (利兹) / 米德尔斯堡现代艺术学院 (米德尔斯堡) / 诺里奇城堡博物馆 (诺里奇) / 皮特家族基金会 (伦敦) / 苏格兰皇家博物馆 (爱丁堡) / 东英吉利大学桑斯伯里视觉艺术中心 (诺里奇) / 苏格兰收藏, SDA (爱丁堡) / 泰晤士下收藏, 斯温顿博物馆与美术馆 (斯温顿) / 英国信托储备银行收藏 (伦敦) / 维多利亚和阿尔伯特博物馆 (伦敦)
[德国]
欧洲工艺美术品贸易事务所 (斯图加特) / 科堡收藏 (勒登塔尔) / 汉堡工艺美术馆 (汉堡) / 皮特西姆森陶瓷基金会
[瑞典]
塞尔马 (哥德堡) / 国家博物馆 (斯德哥尔摩) / 勒斯卡博物馆 (哥德堡)
[瑞士]
阿里亚纳博物馆 (日内瓦) / 贝勒维博物馆 (苏黎世)
[新西兰]
霍克斯湾博物馆和艺术画廊 (纳皮尔)
[美国]
卡内基艺术博物馆 (宾夕法尼亚/匹兹堡) / Crocker Museum of Art (加州/萨克拉门托) / 长滩艺术博物馆 (加州/长滩) / Long House Reserve Collection (纽约) / 洛杉矶艺术博物馆 (加州/洛杉矶) / 明尼阿波利斯美术学院 (明尼苏达/明尼阿波利斯) / 费城艺术博物馆 (宾夕法尼亚/费城) / 斯克利普斯学院 (加州/克莱蒙特) / 大都会艺术博物馆 (纽约)
[加拿大]
加德纳陶瓷博物馆 (多伦多)
[韩国]
爱茉莉太平洋美术馆 (首尔)
[日本]
栃木县立美术馆 (宇都宫) / 益子陶艺美术馆 (益子) / 滋贺县里陶艺之森陶艺馆 (信乐) / 兵库陶艺美术馆 (篠山)

## Jennifer Lee

1956 Born in Scotland  
1975-1979 Edinburgh College of Art  
1979-1980 Travelling scholarship to USA  
1980-1983 Royal College of Art, London. MA, (RCA)

### Solo Exhibitions (2000-)

2018 Sokyo Gallery (Kyoto/ Japan)  
2017 LVS Gallery (Seoul/ South Korea)  
2016 Erskine, Hall & Coe (London/ UK)  
2015 Sokyo Gallery (Kyoto/ Japan)  
2015 The Institute of Ceramic Studies Gallery (Shigaraki/ Japan)  
2013 Erskine, Hall & Coe (London/ UK)  
2012 Frank Lloyd Gallery (Santa Monica/ California/ USA)  
2010 Liverpool Street Gallery (Sydney/ Australia)  
2009 Frank Lloyd Gallery (Santa Monica/ California/ USA)  
2008 Galerie Besson (London/ UK)  
2006 Liverpool Street Gallery (Sydney/ Australia)  
2005 Frank Lloyd Gallery (Santa Monica/ California/ USA)  
2003 Galerie Besson (London/ UK)  
2002 Frank Lloyd Gallery (Santa Monica/ California/ USA)  
2000 Galerie Besson (London/ UK)

### Group Exhibitions (2000-)

2018-2019 Handheld, Aldrich Contemporary Art Museum (Ridgefield/ Connecticut/ USA)  
2018 The Dramatic Vessel, Iwate Museum of Art (Morioka/ Japan)  
Things of Beauty Growing: British Studio Ceramics, Fitzwilliam Museum (Cambridge/ UK)  
Masters of British Studio Pottery, Collect, Saatchi Gallery (London/ UK)  
Loewe Craft Prize 2018, Design Museum, London, UK (Prizewinner)  
Timeless Secrets - Ceramic Artists in Their Own Words, Swindon Museum and Art Gallery (Swindon/ UK)  
2017 The Ehrlich Collection of American and British Ceramics, San Angelo Museum of Fine Arts (San Angelo/ Texas/ USA)  
Things of Beauty Growing: British Studio Ceramics, Yale Center for British Art (New Haven/ Connecticut/ USA)  
The Dramatic Vessel, The Museum of Contemporary Ceramic Art (Shigaraki/ Japan)  
Design Basel, Sokyo Gallery (Basel/ Switzerland)  
Twelve Artists, Erskine, Hall & Coe (London/ UK)  
2015 Vessels: The Spirit of Modern British Ceramics, Mashiko Museum of Ceramic Art (Mashiko/ Japan)  
Many a Slip, Marsden Woo Gallery (London/ UK)  
2014 Toward a DESIGN MUSEUM JAPAN, 21\_21 Design Sight (Tokyo/ Japan)  
British Ceramics from Bernard Leach to New Generation, The Museum of Contemporary Ceramic Art (Shigaraki/ Japan)  
Small is Beautiful, Frank Lloyd Gallery (Santa Monica/ California/ USA)  
The Collector's Exhibition, Liverpool Street Gallery (Sydney/ Australia)  
2013 2nd Sasama International Ceramic Art Festival (Sasama/ Japan)  
International Ceramics, Verkehr Museum (Shizuoka/ Japan)  
From the World II, GALERIE hu (Nagoya/ Japan)  
Classic & Contemporary, Erskine, Hall & Coe (London/ UK)  
Friendship Forged in Fire: British Ceramics in America, American Museum of Ceramic Art (Pomona/ California/ USA)  
2012 FIHOC part two, Frank's International House of Ceramics, Frank Lloyd Gallery (Santa Monica/ California/ USA)  
Galerie Besson, Retrospective of a Lifelong Passion, Officine Saffi Ceramic Arts (Milan/ Italy)  
the nature of things: Jennifer Lee, Hans Stofer and Laura Ellen Bacon, New Art Centre (Wiltshire/ UK)  
Masterworks by International Artists, Yufuku Gallery (Tokyo/ Japan)  
2011 Contemporary Ceramics, Danese (New York/ USA)  
Contemporary British Studio Ceramics, Mint Museum of Craft & Design (Charlotte/ North Carolina/ USA)  
2010 Blue Chip, The Collector's Exhibition, Liverpool Street Gallery (Sydney/ Australia)  
Group exhibition, Yufuku Gallery (Tokyo/ Japan)  
2009 U-Tsu-Wa, Lucie Rie, Jennifer Lee, Ernst Gamperl, 21\_21 Design Sight, Tokyo, Japan  
Contemporary Studio Ceramics: The Dauer Collection, California State University (Sacramento/ California/ USA)  
The Cellmark Collection, Röhsska Museet (Göteborg/ Sweden)  
2008 British Studio Ceramics - 20th Century Transformations, Buckinghamshire County Museum (Aylesbury/ UK)  
Twenty Years - Twenty Pots, Galerie Besson (London/ UK)  
2006 Collect, Victoria & Albert Museum (London/ UK)

Puur Klei, Pottenbakkers Museum (Tegelen/ The Netherlands)  
International Post War Ceramic Art, Bonhams (London/ UK)  
2005 Celebrating 30 Years, Crafts Council at the V&A, Victoria & Albert Museum (London/ UK)  
Biennale Européenne de Céramiques Contemporaines, Musée de l'Outil et de la Pensée Ouvrière (Troyes/ France)  
Modern Pots: Lucie Rie, Hans Coper and their Contemporaries, Dulwich Picture Gallery (London/ UK)  
A Duckworth Homage, Organic Abstraction, Garth Clark Gallery (New York/ USA)  
One Piece - One Artist, International Ausstellung, Galerie Marianne Heller (Heidelberg/ Germany)  
2004 European Ceramics, Westerwald Museum (Westerwald/ Germany)  
2003 Constructed Clay: Modern British Handbuilding, Galerie Besson (London/ UK)  
Selected British Ceramics, James Graham & Sons (New York/ USA)  
Ceramic Biennale 2003, Icheon World Ceramic Centre (Icheon/ Korea)  
British Ceramics: Five Artists, Frank Lloyd Gallery (Santa Monica/ California/ USA)  
British Studio Ceramics, Buckinghamshire County Museum (Aylesbury/ UK)  
Hove Museum & Art Gallery (Hove/ UK)  
2002 Vasen aus 10 Ländern, Bavarian Craft Council (Munich/ Germany)  
Ceramic Modernism: Hans Coper, Lucie Rie and Their Legacy, The Gardiner Museum of Ceramic Art (Toronto/ Canada)  
2001 Poetics of Clay: An International Perspective, Philadelphia Art Alliance (Philadelphia/ Pennsylvania/ USA)  
1st World Ceramic Biennale 2001, Icheon World Ceramic Centre (Icheon/ Korea)  
Modern Pots, Sainsbury Centre for Visual Arts (Norwich/ UK)  
Bengt Julin's Ceramics, Gustavsbergs Porslinsmuseum (Gustavsbergs / Sweden)  
2000 Britisk Keramik.2000.dk, Keramikmuseet Grimmerhus (Grimmerhus/ Denmark)  
Color and Fire, Defining Moments in Studio Ceramics 1950-2000, Los Angeles County Museum of Art (Los Angeles/ California/ USA)

### Public Collections

#### [UK]

Aberdeen Art Gallery and Museums (Aberdeen)/ Ashmolean Museum (Oxford)/ British Museum (London)/ Buckinghamshire County Museum (Aylesbury)/ Contemporary Art Society (London)/ Crafts Council Collection (London)/ Fitzwilliam Museum (Cambridge)/ Glasgow Museum and Art Galleries (Glasgow)/ Hove Museum and Art Gallery (Hove)/ Leeds City Art Gallery (Leeds)/ Middlesbrough Institute of Modern Art (Middlesbrough)/ Norwich Castle Museum (Norwich)/ Peters Foundation (London)/ Royal Museum (Edinburgh)/ Sainsbury Centre for Visual Arts, University of East Anglia (Norwich)/ Scottish Collection, SDA (Edinburgh)/ Thamesdown Collection, Museum and Art Gallery (Swindon)/ Trustees Savings Bank Collection (London)/ Victoria and Albert Museum (London)

#### [Germany]

Europäisches Kunst Handwerk Landesgerwerbeamt (Stuttgart)/ Kunstsammlungen der Veste Coburg (Rödental)/ Museum für Kunst und Gewerbe (Hamburg)/ Peter Siemssen Foundation for Ceramic Art

#### [Sweden]

CellMark (Göteborg). / National Museum (Stockholm)/ Röhsska Museet (Göteborg)

#### [Switzerland]

Musée Ariana (Geneva)/ Musée Bellerive (Zurich)

#### [New Zealand]

Hawkes Bay Art Gallery and Museum (Napier)

#### [USA]

Carnegie Museum of Art (Pittsburgh/ Pennsylvania)/ Crocker Museum of Art (Sacramento/ California)/ Long Beach Museum of Art (Long Beach/ California)/ Long House Reserve Collection (New York)/ Los Angeles County Museum of Art (Los Angeles/ California)/ Minneapolis Institute of Arts (Minneapolis/ Minnesota)/ Philadelphia Museum of Art (Philadelphia/ Pennsylvania)/ Scripps College, Claremont (Claremont/ California)/ The Metropolitan Museum of Art (New York)

#### [Canada]

Gardiner Museum of Ceramic Art (Toronto)

#### [South Korea]

Amorepacific Museum (Seoul)

#### [Japan]

Tochigi Prefectural Museum of Fine Arts (Utsunomiya)/ Mashiko Museum of Ceramic Art (Mashiko)/ The Museum of Contemporary Ceramic Art, Shigaraki (Shigaraki)/ The Museum of Ceramic Art, Hyogo (Sasayama)

# List of works

手びねり彩色炆器  
手作彩色炆器  
Hand built coloured stoneware



1  
帯模様のオリーブ色、泥炭、砂、光輪、閃光  
带状纹橄欖色、泥炭、沙土、光环、閃光  
**Banded olive, peat, sand, haloes, flashing**  
2017  
H27.1 × W14.5 × D14.5 cm  
H10.6 × W5.7 × D5.7 in.  
p.10-11



7  
淡色、閃光する光輪がかかった  
花崗岩質のオリーブ色の帯、傾いた層  
淡色、閃光且带光环的橄欖色  
花崗岩帶、傾斜層  
**Pale, flashing haloed granite  
olive bands, tilted shelf**  
2018  
H25.5 × W14.3 × D12.7 cm  
H10 × W5.6 × D4.9 in.  
p.22-23



2  
傾斜のある淡色、斑点のある  
閃光する花崗岩質の帯、斑点の跡  
淡色、布满斑点的閃光花崗岩帶、  
斑点的痕迹、傾斜的  
**Pale, speckled flashing granite band,  
speckled traces, tilted**  
2018  
H18.5 × W14.5 × D14 cm  
H7.2 × W5.7 × D5.5 in.  
p.12-13



8  
淡色の泥板岩、三筋の泥炭と  
オリーブ色の花崗岩質による  
光輪がかかった跡  
淡色頁岩、三条带泥炭和橄欖色  
花崗岩光环的痕迹  
**Pale shale, three peat olive granite  
haloed traces**  
2017  
H6.3 × W14.5 × D14.2 cm  
H2.4 × W5.7 × D5.5 in.  
p.24-25



3  
濃いオリーブ色、泥炭の帯、  
琥珀色の泥炭の光輪がかかった跡  
深橄欖色、泥炭帶、  
带琥珀色泥炭光环的痕迹  
**Dark olive, peat band,  
umber-peat haloed trace**  
2018  
H23 × W12.8 × D12.8 cm  
H9 × W5 × D5 in.  
p.14-15



9  
青、濃い光輪の苔色の緑  
藍、带深色光环的苔綠色罐口  
**Blue, dark halos moss rim**  
2018  
H12.7 × W11.7 × D10.9 cm  
H4.9 × W4.6 × D4.2 in.  
p.26



12  
信楽 6-18  
信乐 6-18  
**Shigaraki 6-18**  
2018  
H5 × W5.8 × D5.3 cm  
H1.9 × W2.2 × D2.1 in.  
p.31



13  
信楽 3-18  
信乐 3-18  
**Shigaraki 3-18**  
2018  
H5.5 × W5.5 × D5.5 cm  
H2.1 × W2.1 × D2.1 in.  
p.31



14  
信楽 35-14  
信乐 35-14  
**Shigaraki 35-14**  
2018  
H9 × W7.2 × D6 cm  
H3.5 × W2.8 × D2.3 in.  
p.31



18  
信楽 2-18  
信乐 2-18  
**Shigaraki 2-18**  
2018  
H5.8 × W5.1 × D5.1 cm  
H2.2 × W2 × D2 in.  
p.32



19  
信楽 6-14  
信乐 6-14  
**Shigaraki 6-14**  
2018  
H7.8 × W6 × D6.5 cm  
H3 × W2.3 × D2.5 in.  
p.33/p.37



20  
信楽 31-14  
信乐 31-14  
**Shigaraki 31-14**  
2018  
H8 × W6.7 × D7 cm  
H3.1 × W2.6 × D2.7 in.  
p.33



24  
信楽 5-18  
信乐 5-18  
**Shigaraki 5-18**  
2018  
H6 × W6 × D6 cm  
H2.3 × W2.3 × D2.3 in.  
p.34/p.38



25  
信楽 32-14  
信乐 32-14  
**Shigaraki 32-14**  
2018  
H6.8 × W4.5 × D4.5 cm  
H2.6 × W1.7 × D1.7 in.  
p.35/p.39



29  
ドローイング JL905  
画 JL905  
**Drawing JL905**  
2018  
H42.2 × W34.7 cm  
H16.6 × W13.6 in.  
p.41



30  
ドローイング JL900  
画 JL900  
**Drawing JL900**  
2018  
H50.3 × W38.6 cm  
H19.8 × W15.1 in.  
p.42



31  
ドローイング JL904  
画 JL904  
**Drawing JL904**  
2018  
H50.1 × W38.5 cm  
H19.7 × W15.1 in.  
p.43



4  
淡色、二筋の光輪がかかった  
オリーブ色の花崗岩質の跡  
淡色、两条带光环的橄欖色  
花崗岩痕迹  
**Pale, two haloed olive granite traces**  
2018  
H5.4 × W15.2 × D14.9 cm  
H2.1 × W5.9 × D5.8 in.  
p.16-17



10  
斑点のある青、オリーブ色の跡、  
オリーブ色の素地  
布满斑点的藍、橄欖色痕迹、  
橄欖色底  
**Speckled blue, olive trace, olive base**  
2018  
H13.5 × 22.5 W × D22.5 cm  
H5.3 × W8.8 × D8.8 in.  
p.27



15  
信楽 19-15  
信乐 19-15  
**Shigaraki 19-15**  
2018  
H7.8 × W6 × D5.5 cm  
H3 × W2.3 × D2.1 in.  
p.31



21  
信楽 1-18  
信乐 1-18  
**Shigaraki 1-18**  
2018  
H6.8 × W6 × D5.5 cm  
H2.6 × W2.3 × D2.1 in.  
p.33



27  
信楽 20-15  
信乐 20-14  
**Shigaraki 20-15**  
2018  
H8 × W6 × D6.4 cm  
H3.1 × W2.3 × D2.5 in.  
p.35



32  
ドローイング JL906  
画 JL906  
**Drawing JL906**  
2018  
H35.1 × W28 cm  
H13.8 × W11 in.  
p.44



5  
斑点のある泥板岩、オリーブ色の  
素地、光輪がかかった花崗岩質の帯  
布满斑点的頁岩、橄欖色底、  
带光环的花崗岩帶  
**Speckled shale, olive base,  
haloed granite bands**  
2018  
H27.8 × W17.6 × D16.4 cm  
H10.9 × W6.9 × D6.4 in.  
p.18-19



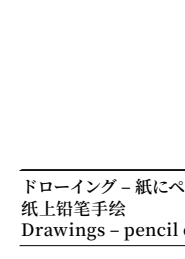
11  
煙色の黒鉛、  
オリーブ色の閃光の跡跡  
烟黑色石墨、橄欖色閃光的痕迹  
**Smoky graphite, olive flashed traces**  
2016  
H20.3 × W30 × D1 cm  
H7.9 × W11.8 × D0.3 in.  
p.28-29



16  
信楽 33-14  
信乐 33-14  
**Shigaraki 33-14**  
2018  
H5.7 × W5 × D5 cm  
H2.2 × W1.9 × D1.9 in.  
p.32



22  
信楽 37-14  
信乐 37-14  
**Shigaraki 37-14**  
2018  
H5.7 × W5.8 × D5.8 cm  
H2.2 × W2.2 × D2.2 in.  
p.34



ドローイング - 紙にペン  
纸上铅笔手绘  
Drawings - pencil on paper



33  
ドローイング SH34-14  
画 SH34-14  
**Drawing SH34-14**  
2018  
H20 × W20 cm  
H7.8 × W7.8 in.  
p.45



34  
ドローイング SH32-14  
画 SH32-14  
**Drawing SH32-14**  
2018  
H20 × W20 cm  
H7.8 × W7.8 in.  
p.46



6  
濃いオリーブ色、二筋の泥炭の輪、  
泥炭の素地  
深橄欖色、两道泥炭环、泥炭底  
**Dark olive, two peat rings, peat base**  
2017  
H8.6 × W14.5 × D14.3 cm  
H3.3 × W5.7 × D5.6 in.  
p.20-21



17  
信楽 34-14  
信乐 34-14  
**Shigaraki 34-14**  
2018  
H6.5 × W6 × D5.7 cm  
H2.5 × W2.3 × D2.2 in.  
p.32/p.36



23  
信楽 5-15  
信乐 5-15  
**Shigaraki 5-15**  
2018  
H7.3 × W6 × D5.6 cm  
H2.8 × W2.3 × D2.2 in.  
p.34



28  
ドローイング JL906  
画 JL906  
**Drawing JL906**  
2018  
H44.4 × W35 cm  
H17.4 × W13.7 in.  
p.40



35  
ドローイング SH6-18  
画 SH6-18  
**Drawing SH6-18**  
2018  
H20 × W20 cm  
H7.8 × W7.8 in.  
p.47

企画展

ジェニファー・リー展

会場：現代美術 艸居

会期：2018年11月3日-12月8日

展覧会図録

編集：現代美術 艸居

写真：今村裕司

デザイン：大向デザイン事務所

印刷：スイッチ・ティフ

発行：現代美術 艸居

初版：2018年11月

Exhibition

Jennifer Lee

Venue: Sokyo Gallery

Date: 3 November - 8 December 2018

Catalogue

Edited by Sokyo Gallery

Photo by Yuji Imamura

Designed by OHMUKAI DESIGN OFFICE

Printed by Switch.tiff co., ltd.

Published by Sokyo Gallery

First Published in November 2018

謝辞：大阪市立東洋陶磁美術館 出川哲朗館長

Special thanks to Tetsuo Degawa, Director,

The Museum of Oriental Ceramics, Osaka

現代美術 艸居

Sokyo Gallery

〒605-0089 京都府京都市東山区元町 381-2

381-2 Motomachi, Higashiyama-ku, Kyoto 605-0089 Japan

T. +81-(0)75-746-4456

F. +81-(0)75-746-4457

info@gallery-sokyo.jp

www.gallery-sokyo.jp

艸居 SOKYO GALLERY